

<白金標準、需給要因を無視し、外的要因で 8000 円を割り込む・・・>



(出所：オアシス)

18日のFOMC以降、FRBの年内利上げ観測が高まりを見せ、「金利を生まない金」にとって投資妙味が低下し、4000ドルを下回るなど貴金属全体の価格の下落に悪影響を与えている。特に3年連続の供給不足の要因は無視され、金利要因のみで昨年10月の水準である7821円まで下値を模索している。しかし7月6日から10日まで中国・蘇州で上海プラチナウィーク2026が開催される。特に中国は現在進行中の第15次五カ年計画の一環として、AI、水素、環境保護、炭素削減の構造的変革を加速させており、これらの国家的優先事項を支えるPGMは、重要かつ戦略的なものとして強化されて来ると思われる。またAIの発展でデータセンターの建設が不可欠である様に、データセンターには大量の半導体が必要となり、PGMの需要が11トン増加される事が予想されている。

そのため現在の8000円前後の白金標準先物は、金利要因だけで売られ過ぎた水準であり、需給要因が見直しされると、FOMC開催まで戻りを見せていた9197円までの戻りを強めてくる可能性は高まると思える。特に新甫6月限は、10月限以来8099円の安値発会の限月であり、買い有利な値動きが続く可能性は高まると思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り上げ、シグナルも切り下げている。RCIでは短期と長期は-80%以下で維持している。特に指数平滑移動平均線の短期が下げ止まり、日足がレンジ内へ移行する可能性は高まると思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,275,000 円(2026年6月29日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約5倍から50倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復 95,040 円(2026年6月29日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>